

## 第1号議案

# 平成 28 年度事業報告

自 平成 28 年 7 月 1 日

至 平成 29 年 6 月 30 日

昨年は、創立 30 周年の年として、定例事業の他、祝賀会、顕彰制度の制定、記念シンポジウムの開催などを含む記念事業を、別途予算を掲げて行った。

会員数は、正会員、公共会員、学会会員、海外会員それぞれ入退会による増減があり、全体的には 1 機関(名)の増加であった。正会員は 4 機関減少した。

まず定例事業については、総会、理事会、幹事会、研究会、講習会、シンポジウム、海外調査、各種広報出版などの定常的な事業活動は適宜状況に合わせて実施された。収入は 393 万余円予算額を下回った。支出については各種項目について吟味を行い有効活用に努めた結果、580 万余円予算額より下回った。その結果、平成 28 年度の収支差額は 187 万余円の黒字となった。

一方、30 周年記念事業については、繰越金を活用することとし、予算額 940 万円に対して、種々支出の節約に努めた結果、支出額は 515 万余円予算額より下回った。

以上、定例事業と記念事業合わせての予算については以下の通りとなった。すなわち、収入は 4,316 万余円の予算に対して、決算額は 3,923 万余円となり、支出は 5,256 万余円の予算に対して、決算額は 4,159 万余円となり、収支は、940 万円赤字の予算に対して、236 万余円の赤字に留まった。その結果、平成 28 年度の定例事業と記念事業合わせての収支差額は予算額 (-940 万円) より、703 万余円少ない赤字額 (236 万余円) となり、翌年度繰越正味財産残高は 5,052 万余円となった。

以下に平成 28 年度の各活動の概要を報告する。

## I 会員数

	平成 27 年度末 (平成 28 年 6 月 30 日現在)	年間の増減			平成 28 年度末 (平成 29 年 6 月 30 日現在)
		入会	退会	増減差	
正会員	114( 112)	5	9	-4	110( 108)
公共会員	1	1	0	1	2
学会会員	75	6	6	0	75
海外会員	12	4	0	4	16
特別会員	6	0	0	0	6
合計	208(206)	16	15	1	209(207)

注 1) カッコ内は会費を納めている会員数。相互に団体加入あるいは相互に情報交換等の契約で、正会員 2 機関が会費免除。

注 2) 海外会員の会員期間は毎年 1 月～12 月。

## II 活動状況

# 第1号議案

## <定例業務>

### 1 開催行事

#### 1.1 研究会の開催

下記2回の講演会、2回の見学会を実施した。

- 第140回研究会(平成28年7月28日)講演会「大阪ガスにおける新型エネファームの開発と余剰電力買取り」、「デジタルグリッド：ハイブリッド型電力システムにおける燃料電池の役割」。参加人数88名
- 第141回研究会(平成28年10月13日)埼玉県のSHS（スマート水素ステーション）施設の見学。参加人数19名
- 第142回研究会(平成29年1月25日)講演会 創立30周年記念講演会として開催。「水素社会の実現に向けた取組の加速」、「カーボンフリー社会実現に向けた取り組み ～最近の兆し～」、「水素社会に向けたHondaの取り組み」。参加人数89名
- 第143回研究会(平成29年5月10日)川崎市の水素への取組（JR武蔵溝ノ口駅（水素）及び川崎マリエン(H<sub>2</sub>One)）の見学。参加人数18名

#### 1.2 セミナー・講習会の実施

下記のセミナーおよび講習会を実施した。

- 第31回燃料電池セミナー(平成28年11月21日)テーマ「これからの燃料電池～新材料から大型・高温システムまで～」実施。参加人数57名
- 第22回寺子屋式講習会（平成28年12月5日）実施。I部基礎編、II部燃料電池組立体験、III部応用編の構成で実施。参加人数27名
- 第15回ミニ勉強会(平成29年4月12日)「SOFCの電力系統における高効率予備電力運用の可能性」をテーマに、講師（電力中央研究所上席研究員 吉葉 史彦氏）による話題提供、参加者との意見交換、及び施設見学という構成で実施。会場、電力中央研究所。参加人数17名
- 第23回寺子屋式講習会（平成29年6月26日）実施。I部基礎編、II部応用編の構成で実施。参加人数32名

#### 1.3 燃料電池シンポジウムの開催

創立30周年記念事業の一環としてFCDIC主催の第24回燃料電池シンポジウムを平成29年5月25日、26日にタワーホール船堀で開催した。参加者525名であった。30周年記念事業として、特別講演、ジョイントセッションにおけるパネルディスカッション、および国際セッションを開催した。また、スポンサーシップの募集を行った。以下、概要を記す。

招待を含め85件（オーラル発表60件、ポスター発表25件）の発表があった。また、本年度も学生を対象とした優秀ポスター賞を設け3件が受賞した。展示会の出展社数は24機関であった。特別講演としては、経済産業省資源エネルギー庁新エネルギーシステム課/燃料電池戦略室の山澄克氏による「水素社会の実現に向けた取組の加速」、(株)東芝次世代エネルギー事業開発プロジェクトチームの大田裕之氏による「再生可能エネルギー由来水素がもたらす新しいソリューション」の2件が行われた。また、特別依頼講演として、(株)本田技術研究所岡部昌規氏による「ホンダにおけるスマート水素ステーションの取組」、川崎重工業(株)西村元彦氏による「CO<sub>2</sub>フリー水素サプライチェーン実現への川崎重工の取組」が行われた。依頼講演

## 第1号議案

としては、東京海洋大学(大出氏)、東京都(堀氏)、神奈川県(清水氏)、周南市(宮崎氏)、神戸市(長尾氏)が行われた。その他、自動車技術会とのジョイントセッションでは、NALTEC 小鹿健一郎氏による基調講演として、「燃料電池自動車の燃費(水素燃料消費率)の測定方法と自動車に関する国際的なルール作りの動向について」を、特別依頼講演として、スズキ(株)真柴岳彦氏「FC二輪車の基準とスズキの取り組み」が行われた。また、「将来に駆ける自動車技術—FCVの展望」をテーマに、NHK 解説委員室山哲也氏をナビゲーターに招聘してパネルディスカッションを行った。なお、展示会場ではFC懇談会との共催による燃料電池組立・体験コーナーが行われた。

### 1.4 交流会、賀詞交換会の開催

平成28年7月28日の総会時に交流会を開催し、会員相互の交流、情報交換を図った。平成29年1月25日の賀詞交換会は、通常よりは広い範囲で参加者を募り、創立30周年祝賀会として開催した。特別功績賞受賞式を行い、授賞者を代表して三井恒夫初代代表からご挨拶を頂戴した。

### 1.5 外部機関との共催事業

- リード エグジビション ジャパン(株)、(一社)水素エネルギー協会、FCDIC 共催の関西 FC EXO 2016、FC EXPO 2017 でブースにて展示を行い、FCDIC の活動を広く一般に広報した。
- 第9回宿泊セミナー：平成28年10月21日～22日、触媒学会燃料電池関連触媒研究会およびFC懇談会との共催により、テーマ「高活性と高耐久性を両立する触媒を目指して(II)」で、開催した。参加者数56名
- 第5回FC国際交流会：平成29年2月28日、FC懇談会と共催で行った。NEDO, Wuhan WUT New Energy, SA Government, 12CNER, Korea Institute of Energy Research, Delta Energy & Environment, National Organization Hydrogen and Fuel Cell Technology からの講演が行われた。参加者数66名

## 2 広報・出版

### 2.1 機関誌「燃料電池」の発行

機関誌「燃料電池」を季毎に4回発行して配布し、その時々々の燃料電池の最新技術を会員に紹介した。以下に各号の特集および頁数を記す。

- 「燃料電池」夏号 vol.16 No.1、2016 特集「燃料電池とエネルギーセキュリティー」105頁  
創立30周年記念号として記念寄稿や写真の頁を設けた。
- 「燃料電池」秋号 vol.16 No.2、2016 特集「燃料電池と新規材料」95頁
- 「燃料電池」冬号 vol.16 No.3、2017 特集「業務用燃料電池」87頁
- 「燃料電池」春号 vol.16 No.4、2017 特集「水電解が水素社会を支える」101頁

### 2.2 「The Latest News」の発行

新聞に掲載された燃料電池の最新ニュースを日本語と英語でFCDICのホームページに掲載し(平成29年6月で259号を数える)、国内外に広く日本の燃料電池開発状況を発信した。

# 第1号議案

## 2.3 年報の発行

2016 年度版年報「日本における燃料電池の開発」(250 頁)を和文と英文で一冊に集約して発行した。内容は国家プロジェクトの概要、各業界の開発概要、各企業・機関の開発・活動状況の他、会員の発表論文一覧、FCDIC 会員名簿、国際標準化、統計等の資料編から構成した。今年度より、会員向けと一般販売用は同じ内容とした。

## 2.4 FCDIC ウェブサイト

燃料電池に関連する写真、燃料電池シンポジウム・セミナー、機関誌、Latest News、研究会、関連情報、FCDIC 各委員会、関連データ、ウェブ情報などの項目毎に分割した。また、会員の拡充策検討の一環としてトップページの見直しを行った。

## 3 海外調査

水素・燃料電池の自主開発を進めている南アフリカ共和国の DST (科学エネルギー省) 主催の会議への参加の機会を利用して燃料電池関連の企業、大学を調査訪問し、機関誌に報告した。

## 4 国際協力

2017 Fuel Cell Seminar Energy & Exhibition の開催に日本の窓口として、論文審査、プログラム作成等に参加した。

## 5 共催・協賛・後援

・以下に承認した共催・協賛・後援行事を列挙する。

### ・共催

#### 第 9 回新電極触媒シンポジウム&宿泊セミナー

主催：一般社団法人触媒学会 燃料電池関連 触媒研究会、FC 懇談会、  
一般社団法人燃料電池開発情報センター

開催日：2016 年 10 月 21 日 (金) ～22 日 (土)

場所：東レ総合研修センター

#### 第 5 回 FC 国際交流会

主催：FC 懇談会

開催日：2017 年 2 月 28 日 (火)

場所：東京理科大学 森戸記念館

#### FC EXPO 2017 ～第 13 回 国際 水素・燃料電池展～

主催：リード エグジビション ジャパン株式会社

開催日：2017 年 3 月 1 日 (水) ～3 日 (金)

場所：東京ビッグサイト

#### 関西 FC EXPO 2017 ～第 2 回 関西 水素・燃料電池展～

主催：リード エグジビション ジャパン株式会社

## 第1号議案

開催日：2017年9月20日（水）～22日（金）

場所：インテックス大阪

### ・協賛

夏休み理科教室&見学会～電池ってなあに？～

主催：公益社団法人日本技術士会 化学部会

開催日：2016年8月6日（土）

場所：日本科学未来館7階 会議室3

第33回ニューメンブレテクノロジーシンポジウム2016

主催：日本膜学会、一般社団法人日本能率協会

開催日：2016年10月26日（水）～28日（金）

場所：東京ビッグサイト

固体酸化物エネルギー変換先端技術コンソーシアム（ASEC）公開シンポジウム

主催：国立研究開発法人産業技術総合研究所 固体酸化物エネルギー変換先端技術コンソーシアム（ASEC）

開催日：2016年11月17日（木）

場所：TKP 東京駅日本橋カンファレンスセンター ホール4B

第36回水素エネルギー協会大会

主催：一般社団法人水素エネルギー協会

開催日：2016年11月28日（月）～29日（火）

場所：タワーホール船堀 小ホール

2016年電気化学会関東支部セミナー「水素社会の早期実現に向けた日本の取組み」

主催：公益社団法人電気化学会 関東支部

開催日：2016年12月9日（金）

場所：明電舎大崎会館

燃料電池・FCH部会 公開シンポジウム

『ここまできた燃料電池の実用技術・要素技術・構成材料の進展-』

主催：一般財団法人大阪科学技術センター 燃料電池・FCH部会

開催日：2016年12月12日（月）

場所：大阪科学技術センター 4階401会議室

電気化学セミナー1「最先端電池技術-2017」

主催：公益社団法人電気化学会 普及委員会

開催日：2017年1月19日（木）～20日（金）

場所：タワーホール船堀 大ホール

第12回再生可能エネルギー世界展示会

主催：再生可能エネルギー協議会

開催日：2017年7月5日（水）～7日（金）

場所：パシフィコ横浜

(公社) 日本セラミックス協会第30回秋季シンポジウム

主催：公益社団法人日本セラミックス協会

## 第1号議案

開催日：2017年9月19日（火）～21日（木）

場所：神戸大学 六甲台地区

### 第58回電池討論会

主催：公益社団法人電気化学会 電池技術委員会

開催日：2017年11月14日（火）～16日（木）

場所：福岡国際会議場

### ・後援

蓄電池、水素・燃料電池国際カンファレンス in 大阪

主催：大阪府

開催日：2016年9月6日（火）～8日（木）

場所：大阪国際会議場

東京タワー・キッズ環境科学博士2016

主催：東京タワー・キッズ環境科学博士2016 実行委員会

開催日：2016年10月8日（土）～10日（月）

場所：東京タワー（展望台と2F廊下展示場、地下タワーホール、玄関前の一部）

TG-NEXPO 2016

主催：東京ガス株式会社

開催日：2016年10月18日（火）～21日（金）

場所：新宿パークタワー

水素先端世界フォーラム2017

主催：九州大学水素材料先端科学研究センター、九州経済産業局

開催日：2017年2月2日（木）～3日（金）

場所：アクロス福岡（2月2日 世界フォーラム）

九州大学伊都キャンパス 椎木講堂（2月3日 研究シンポジウム）

### ・協力

東工大グローバル水素エネルギー研究ユニット第2回公開シンポジウム

主催：東京工業大学 GHEU

開催日：2016年10月5日（水）

場所：東京工業大学 蔵前会館

水素エネルギー利用社会セミナー

主催：明石工業高等専門学校

開催日：2016年10月7日（金）※日程延期、開催日未定（2016.9.30 ご連絡あり）

場所：兵庫県民会館けんみんホール

第4回GPICシンポジウム

主催：GPIC研究会

開催日：2016年10月12日（水）

場所：東京大学山上会館 大会議室

九州大学学術研究都市 セミナーin 東京 2016

## 第1号議案

主催：公益財団法人九州大学学術研究都市推進機構

開催日：2016年10月28日（金）

場所：品川プリンスホテル メインタワー36階「ガーネット36」

特許庁 任期付職員（特許審査官補）の採用について

募集元：特許庁

応募締切日：2016年11月18日（金）

グリーン・イノベーション研究成果企業化促進フォーラム

主催：関西広域連合

開催日：2016年12月22日（木）

場所：ナレッジキャピタル コングレコンベンションセンター ルーム1～3

### 6. 創立30周年記念事業

前年度からの記念事業準備委員会や記念事業委員会の議論を踏まえ幹事会の指揮の下に実施した。以下に、主要事業を時系列に示す。

1. 機関誌の30周年記念号の刊行
2. 顕彰制度を設立した。今回は、特別功績賞の募集を行い、以下の方々が授賞された。  
三井恒夫初代代表、片岡宏文2代目代表、本間琢也初代常任理事
3. 創立30周年記念祝賀会
4. 「日本の燃料電池開発の歴史」の刊行
5. 創立30周年記念第24回燃料電池シンポジウム
6. ウェブサイト：トップページのリニューアル

### III 決算の概要

昨年度は定例業務に加え、創立30周年記念事業は予算を別途定めて実施した。基本的には実施計画に則って事業の運営を図ったが、一部個別事業については適宜状況に合わせて実施の可否、回数見直しなどを行った。

収入については、正会員が減ったこと、シンポジウムや講習会への参加者が期待ほどでは無かったことやFCVフォーラムの実施を見送ったこと、及び共催協力金などが少なめになったことなどから、予算より393万余円少なくなった。一方、支出については、FCVフォーラムの実施見送りや諸費用の効率的使用に従来以上に努めた結果、支出額は予算額より580万余円削減でき、187万余円の黒字となった。

一方、30周年記念事業についても、諸費用の削減に努力し、予算より515万余円少なくなった。

以上のように、定例事業と記念事業を合わせた支出予算5256万余円に対し、決算額は4,159万余円となった。その結果、翌年度繰越正味財産期末残高は、予算の4,349万余円に対して、決算では5,052万余円となった。

平成28年度決算案を別紙に示す。

## 平成28年度決算報告書

自 平成 28年7月 1日

至 平成 29年6月30日

## 正味財産増減計算書

(単位 円)

項 目	H28年度予算額	決算額	備 考
正味財産増減の部			
収益			
1. 会費	27,794,000	26,650,000	
(1)正会員会費	26,300,000	25,140,000	会員数109
(2)公共会員会費	310,000	230,000	会員数2
(3)海外会員会費	600,000	680,000	会員数17(平成27年度年会費1含む)
(4)学術会員会費	584,000	600,000	会員数75
2. シンポジウム参加費	7,700,000	7,394,568	交流会費、展示会出展費を含む
3. 講習会参加費	3,160,000	1,500,000	セミナー、寺子屋、ミニ勉強会
4. 資料頒布	100,000	324,080	シンポジウム予稿集、講習会テキスト等
5. 機関誌頒布	2,280,000	1,706,876	「燃料電池」誌頒布、広告掲載収入
6. 雑収入	2,128,300	1,656,738	預金利子、共催協力金等
本年度収益計(A)	43,162,300	39,232,262	



定例事業(30周年事業以外)

(単位:円)

項 目	H28年度予算額	決算額	備 考
<b>費用</b>			
1. 会議・会場費	5,880,000	4,451,444	研究会・講習会・シホ <sup>o</sup> ・委員会会場費、海外学会・会議参加費他
2. 印刷製本代	5,960,000	5,084,934	機関誌、年報、予稿集、報告書他
3. 渉外費	2,460,000	2,253,546	賀詞交歓会費、総会・シホ <sup>o</sup> ・ジウム交流会費
4. 旅費交通費	1,500,000	1,297,912	委員会委員旅費、情報調査旅費、学会・研究会参加旅費、職員通勤費他
5. 外注費	3,000,000	2,864,765	Latest News執筆・翻訳、人材派遣、ウェブサイト更新他
6. 諸謝金	2,500,000	2,356,084	機関誌・講習会・報告書原稿料、講習会講師謝礼、税理士謝礼
7. 諸会費	500,000	410,690	国内学会参加費、各種団体加入会費他
8. 新聞図書費	600,000	440,867	ELNET他
9. 事務用品費	300,000	236,933	複写代、パソコン部品他
10. 消耗品費	120,000	117,252	一般事務用品
11. 通信運搬費	1,000,000	860,254	郵送代、電話料、Web管理費、メールボックス使用料他
12. 支払手数料	190,000	189,428	送金手数料他
13. 給料手当	12,400,000	11,112,725	職員給与
14. 賞与	0	0	
15. 臨時賃金	280,000	274,314	アルバイト雇用代
16. 法定福利費	440,000	453,140	社会保険料
17. 公租公課	72,000	80,000	地方税、印紙代
18. 福利厚生費	75,000	48,254	健康診断補助他
19. 借室費	3,342,000	3,338,622	家賃
20. 光熱費	329,000	257,515	水道光熱費
21. リース費	840,000	835,776	複写機、セキュリティーサーバー他
22. 賃借料	100,000	10,164	プロジェクター料、バスチャーター代
23. 事務所整備費	200,000	88,928	パソコン周辺機器購入他
24.退職金	0	0	退職慰労金
25. 雑費	420,000	289,114	部屋清掃費、ごみ処理券、火災保険他
26. 予備費	654,300	0	
本年度費用計(B)	43,162,300	37,352,661	
本年度収支差額(A)－(B)	0	1,879,601	
前年度正味財産額(C)	52,893,881	52,893,881	
翌年度繰越正味財産期末残高(A)－(B)+(C)	52,893,881	54,773,482	

## 30周年記念決算報告書

自 平成 28年7月 1日

至 平成 29年6月30日

(単位 円)

	H28年度予算額	決算額	備 考
支出			
1. 会議・会場費	640,000	221,366	座談会・研究会・会場費等 (通常業務に追加)
2. 印刷製本代	3,000,000	1,645,644	記念出版発刊、封筒代、案内文印刷等
3. 渉外費	520,000	256,154	賀詞祝賀会費、シンポジウム交流会費等 (通常業務に追加)
4. 旅費交通費	1,390,000	113,416	座談会旅費、シンポジウム講演者(海外)旅費等
5. 外注費	1,180,000	839,832	座談会テープ起し、シンポジウム通訳等
6. 諸謝金	820,000	1,003,020	座談会・研究会・シンポジウム謝礼
7. 事務用品費	150,000	4,280	複写代他
8. 消耗品費	70,000	18,056	一般事務用品他
9. 通信運搬費	430,000	19,525	郵送代
10. 支払手数料	50,000	3,240	送金手数料他
11. 給料手当	120,000	15,750	記念出版等補助職員給与
12. 臨時賃金	330,000	25,000	記念出版等補助アルバイト雇用代等
13. 雑費	200,000	81,275	記念品他
14. 予備費	500,000	0	
本年度支出合計	9,400,000	4,246,558	

## 平成28年度決算報告書

自 平成 28年7月 1日  
至 平成 29年6月30日

## 正味財産増減計算書

(単位 円)

項 目	H28年度予算額	決算額	備 考
正味財産増減の部			
収益			
1. 会費	27,794,000	26,650,000	
(1)正会員会費	26,300,000	25,140,000	会員数109
(2)公共会員会費	310,000	230,000	会員数2
(3)海外会員会費	600,000	680,000	会員数17(平成27年度年会費1含む)
(4)学術会員会費	584,000	600,000	会員数75
2. シンポジウム参加費	7,700,000	7,394,568	交流会費、展示会出展費を含む
3. 講習会参加費	3,160,000	1,500,000	セミナー、寺子屋、ミニ勉強会
4. 資料頒布	100,000	324,080	シンポジウム予稿集、講習会テキスト等
5. 機関誌頒布	2,280,000	1,706,876	「燃料電池」誌頒布、広告掲載収入
6. 雑収入	2,128,300	1,656,738	預金利子、共催協力金等
本年度収益計(A)	43,162,300	39,232,262	

(単位:円)

項 目	H28年度予算額	決算額	備 考
<b>費用</b>			
1. 会議・会場費	6,520,000	4,672,810	研究会・講習会・シホ <sup>o</sup> ・委員会会場費、 海外学会・会議参加費他
2. 印刷製本代	8,960,000	6,730,578	機関誌、年報、予稿集、報告書他
3. 渉外費	2,980,000	2,509,700	賀詞交歓会費、総会・シホ <sup>o</sup> ジウム交流会費
4. 旅費交通費	2,890,000	1,411,328	委員会委員旅費、情報調査旅費、 学会・研究会参加旅費、職員通勤費他
5. 外注費	4,180,000	3,704,597	Latest News執筆・翻訳、人材派遣、 ウェブサイト更新他
6. 諸謝金	3,320,000	3,359,104	機関誌・講習会・報告書原稿料、 講習会講師謝礼、税理士謝礼
7. 諸会費	500,000	410,690	国内学会参加費、各種団体加入会費他
8. 新聞図書費	600,000	440,867	ELNET他
9. 事務用品費	450,000	241,213	複写代、パソコン部品他
10. 消耗品費	190,000	135,308	一般事務用品
11. 通信運搬費	1,430,000	879,779	郵送代、電話料、Web管理費、 メールボックス使用料他
12. 支払手数料	240,000	192,668	送金手数料他
13. 給料手当	12,520,000	11,128,475	職員給与
14. 賞与	0	0	
15. 臨時賃金	610,000	299,314	アルバイト雇用代
16. 法定福利費	440,000	453,140	社会保険料
17. 公租公課	72,000	80,000	地方税、印紙代
18. 福利厚生費	75,000	48,254	健康診断補助他
19. 借室費	3,342,000	3,338,622	家賃
20. 光熱費	329,000	257,515	水道光熱費
21. リース費	840,000	835,776	複写機、セキュリティーサーバー他
22. 賃借料	100,000	10,164	プロジェクター料、バスチャーター代
23. 事務所整備費	200,000	88,928	パソコン周辺機器購入他
24.退職金	0	0	退職慰労金
25. 雑費	620,000	370,389	部屋清掃費、ごみ処理券、火災保険他
26. 予備費	1,154,300	0	
本年度費用計(B)	52,562,300	41,599,219	
本年度収支差額(A)－(B)	－9,400,000	－2,366,957	
前年度正味財産額(C)	52,893,881	52,893,881	
翌年度繰越正味財産期末残高 (A)－(B)+(C)	43,493,881	50,526,924	

# 貸借対照表

平成 29年6月30日現在

(単位 円)

資産の部		負債および正味財産の部	
項目	金額	項目	金額
<b>【流動資産】</b>	<b>51,906,879</b>	<b>【流動負債】</b>	<b>3,595,955</b>
現金	76,425	前受金	2,248,000
普通預金	24,743,754	源泉税預り金	222,709
定期預金	25,000,000	住民税預り金	22,300
未収入金	2,086,700	未払費用	1,102,946
<b>【固定資産】</b>	<b>2,216,000</b>	<b>【正味財産】</b>	<b>50,526,924</b>
敷金	2,000,000	(内当期正味財産増加額)	50,526,924
電話加入権	216,000		
<b>合計</b>	<b>54,122,879</b>	<b>合計</b>	<b>54,122,879</b>

# 財産目録

平成 29年6月30日現在

(単位:円)

項 目	金 額	備 考
<b>資産の部</b>		
【流動資産】		
現金	76,425	手元現金
預 金	49,743,754	
(内 訳)		
みずほ銀行 神田支店	1,694,153	普通 主預金通帳
同 上	16,768,385	普通 燃料電池シンポジウム用通帳
同 上	5,279,187	普通 燃料電池講習会用通帳
同 上	10,000,000	定期 定期預金
三井住友銀行 神田支店	1,002,029	普通 会費振込用通帳
同 上	10,000,000	定期 定期預金
りそな銀行 神田支店	5,000,000	定期 定期預金
未収入金	2,086,700	シンポジウム参加費、寺子屋参加費、海外会員会費、共催協力金
【固定資産】		
敷 金	2,000,000	事務所敷金
電話加入権	216,000	事務所電話 03-6206-0231 ファクシミリ 03-6206-0232
合 計	54,122,879	
<b>負債の部</b>		
前受金	2,248,000	29年度会費前受金
源泉税預り金	222,709	源泉所得税預り金
住民税預り金	22,300	住民税預り金
未払費用	1,102,946	旅費交通費、参加費等
合 計	3,595,955	
差引正味財産	50,526,924	

# 平成 29 年度事業計画 (案)

自 平成29年7月 1日

至 平成30年6月30日

会員数はほぼ一定の状態だが、正会員数は減少の方向にあるため、今年度は情報発信費用のスリム化に務めるとともに、会員・収入増対策については魅力ある情報発信を行うべく引き続き議論しながら活動を進める。

今年度の活動の主なものは次のとおりである。

## I 活動計画

### 1 開催行事

#### 1.1 総会・交流会、賀詞交歓会

平成 29 年度総会を平成 29 年 8 月 24 日、賀詞交歓会を平成 30 年 1 月 24 日に開催する。総会時には交流会を催し、賀詞交歓会と共に会員相互の親睦を図る場とする。

#### 1.2 第 25 回燃料電池シンポジウム

平成 30 年 5 月 17 日、18 日に開催の予定である。燃料電池技術開発や実用化に関する動向を発信する場として関係する企業、大学、機関に発表を広く呼びかけていく。昨年度の創立 30 周年記念大会の結果を踏まえながら、プログラムの検討を行う。

#### 1.3 研究会

講演会を年 2 回、見学会を年 2 回程度予定している。講演テーマ、見学場所等の選定は会員の要望を踏まえ、企画委員会にて検討していく。

#### 1.4 セミナー・講習会

燃料電池に関するセミナーを 11 月 28 日に開催する。初心者向け講習会(寺子屋式講習会)についても、基礎と応用に分けた構成として実施していく。

## 2 広報・出版

### 2.1 機関誌「燃料電池」の発行

燃料電池に特化した学術雑誌(年 4 回発行)として、内外の動向に応える内容で発行を継続する。

### 2.2 2017 年度版年報「日本における燃料電池の開発」の発行

日本における燃料電池の開発状況を、和文と英文で一冊に集約して電子ファイルとして発行する。

### 2.3 「The Latest News」の発行

新聞に掲載された燃料電池関係のニュースを FCDIC のウェブサイトに掲載する。また、英語版については海外会員等に E メールで届けると共に、FCDIC のウェブサイトにも掲載する。情報発信スリム化の一環として、年度途中での休止を予定している。なお、代替情報の発行を検討する。

### 2.4 ウェブサイトの運営

ウェブ情報等、タイムリーな情報発信の方法として適宜見直しを継続する。燃料電池に関

## 第2号議案

係する催しなどの情報も会員の要望に応じ、積極的に掲載していく。

### 3 海外調査

平成 29 年 11 月 7 日～9 日、米国カリフォルニア州で開催の 2017 Fuel Cell Seminar Energy & Exposition 等の国際会議に出席し、燃料電池関連情報を機関誌等に報告する。

### 4 国際協力

2017 Fuel Cell Seminar Energy & Exposition の開催に日本の窓口として協力する。また応募発表論文の審査、プログラムの編成や会議においては座長等として運営に協力する。標準化活動に協力し、ウェブサイト等に動向を報告する。

### 5 共催・協賛・後援

平成 29 年 9 月 20 日～22 日、大阪で開催の関西 FC EXPO、平成 30 年 2 月 28 日～3 月 2 日、東京で開催予定の第 14 回国際水素・燃料電池展(FC EXPO 2018)に共催機関として参加すると共に、展示ブースにおいて FCDIC の活動を展示し、広報する。

平成 29 年 10 月 27 日～28 日に触媒学会燃料電池関連触媒研究会及び FC 懇談会と共催、第 10 回新電極触媒シンポジウム&宿泊セミナーを開催する。

平成 30 年 2 月 27 日に FC 懇談会と共催で、第 6 回国際交流会を開催する。

その他の共催・協賛・後援についても、幹事会の承認を得て、積極的に引き受ける。

### 6 その他

2020 年に開催予定の東京オリンピック・パラリンピックでは水素エネルギー普及の推進がテーマの一つに挙げられている。セミナーやシンポジウムなど各種イベントや各種刊行物の企画などに適宜反映させ、燃料電池への関心拡大に繋げる。

## II 予算の概要

収入に関しては、昨年度来の会員入退会動向や発信情報見直しの影響を考慮して、会費、イベント参加費等を設定して収入予算を積み上げ、3,773 万余円の収入予算を組んだ。

一方、支出については情報発信費用の更なるスリム化を進めて全体的に予算削減に努める方針の下に、昨年度実績をベースに積み上げることで、総額 3,773 万余円とした。

以上、収入および支出計上の結果、平成 29 年度予算の収支差額が均衡し、今期末の翌年度繰越収支差額は、5,052 万余円を見込むこととする。

平成 29 年度予算案を別紙に示す。



# 平成29年度予算案

自 平成 29年7月 1日  
至 平成 30年6月30日

## 収支予算書

(単位 円)

項 目	H29年度予算額	H28年度予算額	H28年度決算額	備 考
収入				
1. 会費	25,812,000	27,794,000	26,650,000	
(1)正会員会費	24,700,000	26,300,000	25,140,000	会員数103(101社分会費)+途中入会
(2)公共会員会費	240,000	310,000	230,000	会員数2
(3)海外会員会費	280,000	600,000	680,000	更新時会員数7+途中入会
(4)学術会員会費	592,000	584,000	600,000	会員数69+途中入会
2. シンポジウム参加費	6,000,000	7,700,000	7,394,568	交流会費、展示会出展費を含む
3. 講習会参加費	1,800,000	3,160,000	1,500,000	セミナー、寺子屋等
4. 資料頒布	160,000	100,000	324,080	シンポジウム予稿集 講習会テキスト等
5. 機関誌頒布	1,800,000	2,280,000	1,706,876	「燃料電池」誌頒布、広告掲載収入
6. 雑収入	2,165,000	2,128,300	1,656,738	預金利子、講習会教材販売、共催協力金等
本年度収入合計(A)	37,737,000	43,162,300	39,232,262	

(単位:円)

項 目	H29年度予算額	H28年度予算額	H28年度決算額	備 考
支出				
1. 会議・会場費	5,082,000	5,880,000	4,451,444	研究会・講習会・シンポ・委員会会場費、海外学会・会議参加費他
2. 印刷製本代	4,630,000	5,960,000	5,084,934	機関誌、年報、予稿集、報告書他
3. 渉外費	2,450,000	2,460,000	2,253,546	賀詞交歓会費、総会・シンポジウム交流会費
4. 旅費交通費	1,380,000	1,500,000	1,297,912	委員会委員旅費、情報調査旅費、学会・研究会参加旅費、職員通勤費他
5. 外注費	1,900,000	3,000,000	2,864,765	Latest News執筆・翻訳、人材派遣、ウェブサイト更新他
6. 諸謝金	2,020,000	2,500,000	2,356,084	機関誌・講習会・報告書原稿料、講習会講師謝礼、税理士謝礼
7. 諸会費	550,000	500,000	410,690	国内学会参加費、各種団体加入会費他
8. 新聞図書費	300,000	600,000	440,867	ELNET、日経、他
9. 事務用品費	300,000	300,000	236,933	複写代、パソコン部品他
10. 消耗品費	120,000	120,000	117,252	一般事務用品
11. 通信運搬費	950,000	1,000,000	860,254	郵送代、電話料、Web管理費、メールボックス使用料他
12. 支払手数料	165,000	190,000	189,428	送金手数料他
13. 給料手当	11,180,000	12,400,000	11,112,725	職員給与
14. 賞与	0	0	0	
15. 臨時賃金	270,000	280,000	274,314	アルバイト雇用代
16. 法定福利費	457,000	440,000	453,140	社会保険料
17. 公租公課	530,000	72,000	80,000	法人税、印紙代、消費税
18. 福利厚生費	75,000	75,000	48,254	健康診断補助他
19. 借室費	3,108,000	3,342,000	3,338,622	家賃、更新料
20. 光熱費	300,000	329,000	257,515	水道光熱費
21. リース費	840,000	840,000	835,776	複写機、セキュリティーサーバー他
22. 賃借料	80,000	100,000	10,164	バスチャーター代他
23. 事務所整備費	150,000	200,000	88,928	什器備品、パソコン購入他
24.退職金	100,000	0	0	退職慰労金
25. 雑費	400,000	420,000	289,114	部屋清掃費、ごみ処理券、火災保険他
26. 予備費	400,000	654,300	0	
本年度支出合計(B)	37,737,000	43,162,300	37,352,661	
本年度収支差額(A)-(B)	0	0	1,879,601	
前年度繰越収支額(C)	50,526,924	52,893,881	52,893,881	
翌年度繰越収支差額(A)-(B)+(C)	50,526,924	52,893,881	54,773,482	

## 第3号議案

### 平成29年度 役員・顧問 (案)

#### I 理事

横浜国立大学	太田 健一郎 (代表候補)
	(大学院工学研究院 グリーン水素研究センター センター長 名誉教授)
(一社) 日本ガス協会	多田 進一 (副代表候補)
	(常務理事)
JXTGエネルギー (株)	<b>新</b> 藤山 優一郎 (副代表候補)
	(執行役員 中央技術研究所長)
東芝燃料電池システム (株)	<b>新</b> 山崎 英昭 (副代表候補)
	(代表取締役社長)
(一社) 燃料電池開発情報センター	吉武 優 (常任理事候補)
大阪ガス (株)	<b>新</b> 森田 哲司 [理事]
	(理事 商品技術開発部長)
(国研) 産業技術総合研究所	<b>新</b> 角口 勝彦 [理事]
	(関西センター 所長)
JXTGエネルギー (株)	<b>新</b> 伊藤 直樹 [理事]
	(中央技術研究所 先進エネルギー研究所 副所長)
(一財) 電力中央研究所	伊崎 慶之 [理事]
	(エネルギー技術研究所 スタッフ 上席研究員)
東京ガス (株)	菱沼 祐一 [理事]
	(燃料電池事業推進部 部長)
トヨタ自動車 (株)	小島 康一 [理事]
	(F C技術・開発部 主査)
長岡技術科学大学	梅田 実 [理事]
	(大学院 工学研究科 物質材料工学専攻 教授)

## 第3号議案

パナソニック（株）	小原 英夫	[理事]	
			（先端研究本部 水素・エネルギープロジェクト室 室長）
（株）本田技術研究所	守谷 隆史	[理事]	
			（四輪R&Dセンター第5技術開発室 上席研究員）
三菱日立パワーシステムズ（株）	北川 雄一郎	[理事]	
			（燃料電池事業室 室長 新製品SBU長）

### <監事>

横浜国立大学	神谷 信行	[監事]	
			（理工学部 化学教室 スーパーバイザー）
豊橋技術科学大学	恩田 和夫	[監事]	
			（名誉教授）

### II 顧問

元東京ガス副社長・前FCDIC代表	片岡 宏文	[顧問]
筑波大学名誉教授・元FCDIC常任理事	本間 琢也	[顧問]
前FCDIC常任理事	小関 和雄	[顧問]

※代表、副代表、常任理事の選任は理事会で行います。

※顧問は理事会の議決により選任されました。